

【対馬市 地域包括ケアシステム推進ロードマップ】

①地域包括ケアシステム評価指標の8項目に分けています。細分化は評価指標やワークシート、介護保険事業計画等を基に適宜行ってください。

②各項目について、市町の目指す姿を記載してください

③「②」の目指す姿の達成年度を選択してください

④地域包括ケアシステム推進状況評価シートを基に推進方を記載してください

⑤A～Hの各項目における達成年度に向けた工程を記載してください
※「③」で記載した達成年度と整合をとってください
※矢印の中には施策を簡潔に記載してください

項目	目指す姿(目標・目的)	達成年度	推進方策(方法・手段)	第9期計画			第10期計画		
				2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	2027年度 (令和9年度)	2028年度 (令和10年度)	2029年度 (令和11年度)
(例) A 医療	退院支援	2026年度(令和8年度)	多職種研修会を定期的に開催し、退院前カンファレンスの目的や参加者、重要性等について多職種に理解し、行動に移してもらう。	入院支援ルールの作成・周知			退院前カンファレンスについての勉強会を開催(年2回)		
A 医療	医療・介護に関する相談窓口の設置	2026年度(令和8年度)	平成30年度に「医療介護連携室」を設置、令和2年度に長崎県対馬病院内に「地域医療連携室」を設置し保健師を配置した。相談機関を関係機関、住民に対し周知する。	医療・介護に関する相談窓口の継続実施。					
B 介護	介護人材の確保	2026年度(令和8年度)	介護職のイメージがアップされ、介護を将来の仕事として選択する若い世代や、U・Iターンをする者が介護の仕事に就く人が増え、現職の介護職の離職が少ない。	左記、介護人材確保地域連携支援事業の継続実施。					
C 保健・予防	住民主体の通いの場の継続	2026年度(令和8年度)	引き続き、鹿屋体育大学の協力を得て、スクエアステップの普及と実践に取り組む。また、団体の高齢化が顕著であり、リーダー育成と団体間交流会に取り組む。	住民主体の通いの場の継続の継続実施。					
D 住まい・住まい方	安心できる住まいの場の確保	2026年度(令和8年度)	4ユニット36人分(2ユニット×2施設)の整備を行うこととしており、令和6年度に事業者の選定を行った。令和8年度の事業者指定に向けて準備中である。	実施事業所の公募、協議			事業者指定		
E 生活支援・見守り	生活支援の充実	2026年度(令和8年度)	令和10年度までの5か年計画にて市内全域を対象とした住民座談会を開催し、助け合い活動の推進を図る。	助け合い活動の周知を図り、活動団体の発足、地区内外への活動の展開に向けたアプローチを行う。					
F 認知症・権利擁護	認知症の人とその家族を支える仕組み作り	2026年度(令和8年度)	認知症サポーターを毎年新たに200名以上養成し、また、すでに認知症サポーター養成講座を受講した方への認知症サポーター・ステップアップ講座を開催し認知症の更なる理解を促進していく。権利擁護センターと連携を図り認知症の人の権利擁護支援を推進していく。	認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座の継続 成年後見利用促進計画に沿った取り組みの実施					
G 市町と関係者・団体のネットワーク(連携)	地域ケア会議の展開	2026年度(令和8年度)	地域ケア会議などで抽出された地域課題を第2層協議体に情報提供し、第2層協議体において課題の協議を行い、地域政策に反映させる。	新体制での地域ケア会議を継続し、抽出された地域課題に対する施策を実施					
H 地域共生社会の実現と住民参画	高齢者の社会参画	2026年度(令和8年度)	令和6年度に住民主体型サービスの制度の整理を行った。今後、検証を行い、必要な修正を行うとともに住民座談会、広報、セミナーなどにより、周知、実施に向けた働きかけを行う。	制度の整理			モデル事業の実施		
				周知、実施に向けた働きかけを行う。					